

中学
募集

6年一貫教育

YOKOSUKA GAKUIN

JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



周辺地図



学校説明会【要web予約】

9月12日(土) 10:00~11:30

11月7日(土) 9:00~12:00 ＊入試問題体験会を並行開催

12月12日(土) 10:00~11:30

1月9日(土) 9:00~12:00 ＊入試問題体験会を並行開催

※ご希望の方には「校内案内」「個別相談」を行います

水曜ミニ説明会【要web予約】

※実施日時につきましてはHPでご確認ください

入試問題体験会【要web予約】

11月7日(土) 9:00~12:00

1月9日(土) 9:00~12:00

※2科目型(国・算)、4科目型(国・算・理・社)、適性検査型(I・II)のいずれかを選択してください

※学校説明会と並行開催となります

オープンスクール【要web予約】

8月11日(火・祝) 10:00~13:00

楠木祭(文化祭)【予約は不要】

9月19日(土) 9:00~15:00

予約開始時期については、それぞれ約1か月前を予定していますので、HPをご確認ください。
ご来校の際は、上履きをご持参ください。



横須賀学院HP

【6年一貫教育】



横須賀学院中学高等学校

〒238-8511 横須賀市稲岡町82番地 Tel.046-822-3218 Fax.046-828-3668 info.jh@yokosukagakuin.ac.jp https://www.yokosukagakuin.ac.jp/



横須賀学院中学高等学校

School Guide 2027

敬神

それゆえ、信仰と、希望と、愛、
この三つは、いつまでも残る。
その中で最も大いなるものは、愛である。

コリントの信徒への手紙一 13章13節

愛人

建学の精神

「敬神・愛人」

「敬神」とは、人間が自己中心的に行動することを戒め、
神を敬い、謙虚に自己を認識することを意味しています。

「愛人」とは、自分と他者は神の下でみな平等であって、
他者をかけがえのない人格として尊重する心を意味しています。

横須賀学院は、この「敬神・愛人」を教育の基本精神とした基督教教育を行っています。

ミッションステートメント

横須賀学院は 基督教の信仰に基づく教育によって
神の前に誠実に生き 真理を追い求め
愛と奉仕の精神をもって 社会に 世界に対して
自らの使命を果たす 人間の育成を目指します

■ メッセージ

理事長・院長 川名 稔

本校は建学の精神である「敬神・愛人」のもと、基督教に基づく人格教育を実践しています。毎日の礼拝・聖書の授業・基督教行事を通して、「如何に生きるべきか」を一人ひとりに問いかけ続けています。誰にでも与えられたタラント（賜物・資質・天分）を遺憾なく発揮し、失敗を恐れず、前向きに歩むよう常に呼びかけています。中学校時代は失敗体験からも多くのことを学び、それを成長の糧にできるかけがえのない時です。自分の可能性を信じ、お互いに支え合い、励まし合える教育共同体でありたいと思っています。

今、急速に進むグローバル化、AIの進化、少子高齢化等々、変革する社会に対応するために、学校教育改革が進められています。本校でもキャリア教育、グローバル教育、ICT教育など、より良い学習環境を構築するための具体的、魅力的なプログラムが実践されています。与えられたミッション（使命・天命）を自覚しつつ、自分を愛するように、隣人を愛することのできる心優しい人の育成をこれからも目指していきます。



■ メッセージ

校長 天野 海走

本校は「敬神・愛人」の建学の精神のもと、基督教の信仰に基づく教育を行っています。生徒たちには、私たち一人ひとりが神さまに愛された、かけがえのない存在であることを伝えていきます。聖書のことば、基督教の価値観に触れて、自分自身を見つめ、隣人を思いやり、共に生きる力を身につけてほしいと思っています。

現代社会は、物事の正解が一つではない時代と言われています。そのような中で必要とされるのは、知識や能力だけでなく、何を大切に生きていくのかという確かな軸です。本校では、基督教教育を通して、誠実さ、謙虚さ、赦し、感謝の心を育て、生徒一人ひとりが自らの良心に基づいて判断し行動できる人へと成長することを願っています。

中学高校の6年間は、心も体も大きく成長する大切な時期です。学習だけでなく、様々な出会いを通して「自分はどんな人になりたいのか」「何を大切に生きていくのか」を自分と向き合う中で考えてほしいものです。自分の生き方を作るチャレンジをしっかりと支えます。



経験を 力に

一人ひとりの
未来につながる
横須賀学院での学び



進学先
青山学院大学
理工学部
数理サイエンス学科
W.Y.さん

数学にも文章力が必要と学んだ中高時代
好きな分野を深く学んで社会貢献したい

横須賀学院はレベルが高くて勉強が大変だというイメージだったのですが、実際は授業がわかりやすくて学ぶ楽しさがありました。得意な数学以外の科目も、授業をしっかりと受けて克服することができました。受験の小論文は証明問題だったのですが、数式を証明するには文章力も必要だと教えられました。大学で最先端のデータサイエンスを学び社会に貢献したいです。



進学先
上智大学
文学部
史学科
H.M.さん

横須賀学院で得た最も大切な財産は
一生の友だちができたこと

横須賀学院は開放的で居場所を見つけることのできる学校です。それぞれが自分の世界に没頭できる写真部は自由そのもの。私は木々や花の写真を撮っていました。世界史分野では古代オリエントが好きで、好きなだけ図書館で探究することができました。何よりも代えがたかったのは一生の友だちができたこと。友と支え合った学校生活はとても楽しい6年間でした。



進学先
北里大学
医学部
医学科
K.K.さん

同じ志を持つ仲間と目指した医学部
隣人愛の精神で身近な人を助けたい

G一貫コースには自分と同じく医学部を目指す仲間がいて、情報共有し、励まし合いながら受験に挑んでいました。高1の頃にコロナ禍があり医療関係者の責任の重さを知りましたが、医師となって人を助けたい気持ちは変わりませんでした。卒業した今になって、横須賀学院で日々積み重ねた宗教観や隣人愛の精神が自分の基礎を築いてくれたのだと思います。



高校2年 O.A.さん

高校時代から国際性を磨くことのできる
横須賀学院の中にある多様性

私の家族は基本は英語で会話し、父がプエルトリコ人なのでスペイン語も聞こえてきます。昨年初めてプエルトリコに行き、父の母国の文化を伝えたいと思いました。横須賀学院には私のように様々な国の文化を背景に持つ人や、海外生活を経験した友だちもいてグローバルな感覚が磨かれます。目標は国際政治経済学部で世界を学ぶことです。



高校3年 T.A.さん

横須賀学院の先生方のように
勉強の面白さを伝えられる教師になりたい

兄が学校生活を満喫した横須賀学院。兄は文系学部に進学し、僕は理系選択ですが、共通しているのは教師を目指していることです。地理の先生は本当に楽しそうに授業を展開し、数学の先生は昼休みに一緒に問題を解いてくれることもあります。僕も先生のような教師になって、数学や物理が苦手な生徒がその教科を好きになれるような授業がしたいです。



中学2年 O.A.さん

自然豊かな環境の中で生物を観察し
研究発表までの過程を学んでいます

生物好きな僕にとって、小網代の森の自然学習はワクワクするものでした。森の生態系を観察して考察し、文化祭でポスター発表をしました。2年では清里、3年は沖縄で自然観察をするのが今から楽しみです。理科学部では、近くの池の水のプランクトンを観察しているので、学校から近い海の生態系も調べたいと思っています。将来は生物の研究をするのが目標です。



中学3年 W.A.さん

中学生の自分が感じる「戦争」を
楠木祭で表現したい

楠木祭を見学したとき「この学校なら楽しい学校生活ができる!」と思って入学しました。楠木祭で心に決めているのは、沖縄自然教室の事前学習で強烈な印象を受けた戦争について伝えること。子どもの頃に見聞きした戦争と中学生の自分が感じた戦争とはまったく違うものだったので、実際に現地に行って学び、感じたことを楠木祭で表現したいと思います。

Christian Education

キリスト教教育

自分に与えられた賜物を磨き、
自分を愛するように他者を愛する隣人愛の心を育てる

横須賀学院は、一人ひとりが神様から愛されているかけがえのない存在であるというキリスト教の人間観に立って教育を行っています。その中で、互いを大切にし合い、他者に奉仕する生き方を日々の礼拝やキリスト教行事を通して学びます。



自らの人生の幅を広げる隣人愛の実践

キリスト教教育の4つの柱

横須賀学院の一日は、讃美歌を歌い、聖書の教えに耳を傾け、祈りを捧げる礼拝からはじまります。毎日の礼拝だけでなく、年間を通じて聖書の授業を行い、キリスト教について学びます。多くのキリスト教行事に参加する中で、自分自身について、また人間関係について深く考えます。



Christian Education 01 礼拝

毎朝礼拝を行い、讃美と祈りをもって一日をはじめます。生徒が司会・お話を担当する「生徒礼拝」、毎月一度その月の誕生者を祝う「誕生礼拝」も行われています。



Christian Education 03 聖書の授業

6年間を通じて週に1回、聖書の授業を行っています。聖書やキリスト教の基礎的な知識を学ぶとともに、聖書の世界にふれ、「自分で考える」ことを大切にしています。



Christian Education 02 宗教行事

誕生礼拝、イースター礼拝、花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス特別礼拝などの礼拝行事のほか、クリスマスページェントなど、様々な宗教行事を神様におささげしています。



Christian Education 04 奉仕

学校生活の中で、キリスト教精神を具体的にあらわす活動として、チャペル委員、キリスト教青年会、聖歌隊、ハンドベル・クワイアがあります。学内外の様々な場面で、自らを活かす奉仕活動を、喜びをもって行っています。

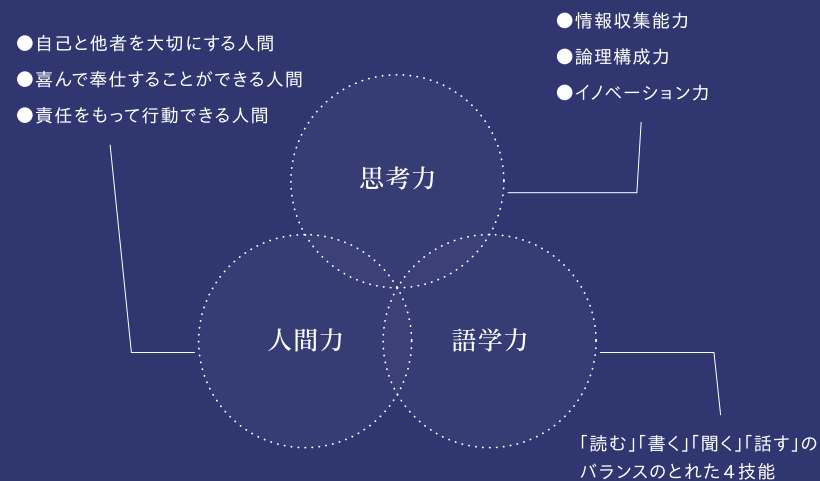
Global Education 02

グローバル教育

キリスト教を土台としたグローバル教育で
世界の隣人と共に生きる力を育てる

グローバル人材に求められる力

これからのグローバル社会を生きていくためには、語学力やコミュニケーション能力以外にも責任感や協調性、チャレンジ精神や異文化理解など様々な能力が求められます。横須賀学院ではキリスト教を土台としたグローバル教育を積極的に展開し、これらのスキルの習得を目指します。



実社会で求められる実践的な英語

英語4技能の向上

英語を習得するためには集中的に学習することも効果的ですが、継続的に英語にふれることも重要です。本校では中1から英語の授業とは別に、英会話の時間が週1時間設けられています。英会話の授業はネイティブ教員1名と日本人教員1名によるチーム・ティーチングの体制を整えており、オンライン英会話も導入しています。そのため、一人ひとりの英語を話す時間が増え、今まで以上に積極的にコミュニケーションをとろうとする生徒が増えています。

Global Education 01 フォニックス授業

ネイティブの子どもたちが初等教育で導入しているものと同様に、中1の英語の時間にアルファベットを組み合わせた時の発音の仕方を理論的・継続的に学びます。初めて見た単語でも、正しい発音が自然にできるようになることを目的としています。

Global Education 02 オンライン英会話

1人1台のiPadを利用し、全学年とも週に1回(年間で20回以上)のオンライン英会話の授業を行っています。ネイティブの先生との1対1の会話に最初は少し緊張気味の生徒もありますが、すぐに笑顔になって楽しく取り組めるようになっていきます。本校のネイティブ教員と日本人の英語科教員2名で、その時間をサポートしています。

Global Education 03 検定試験へのチャレンジ

日常の学習がどのくらい身についているかを確認するために、英検の受験を奨励しています。学年目標を早々にクリアし、中2・中3での英検準2級、2級の合格者も増えてきました。

Global Education 04 国際交流プログラム(中3～高2希望者)

同世代の高校生との交流プログラムです。毎年来校するマイアミハイスクールの生徒たちとは、授業のバディをしたり、書道や日本語のゲームなどを楽しんだりして交流を深めています。また、中3と高1の希望者を対象としたニュージーランドタム留学(1～3月)や中3の夏休みを利用して現地の学校で学ぶ、ニュージーランドホームステイなどのプログラムも用意されています。

中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
スプリングイングリッシュデイズ		ニュージーランド	タム留学	海外での体験学習と現地校交流	
	サマー・ウインターイングリッシュデイズ			オーストラリアホームステイプログラム	
		ニュージーランドホームステイ		交換留学プログラム	
		セブ・インテンシブ・イングリッシュ・キャンプ			
				青山学院大学 学問入門講座	
		インターナショナルスクールでのボランティア	(春期・夏期・帰国生等向け英語力保持プログラム)		
英検取得目標	中1:4～5級	中2:3～4級	中3:3～準2級	高1:準2～2級	高2・高3:2級

Ⅱ 選べる国内外の語学研修

グローバル教育プログラム

海外の文化や価値観の違いを理解し、グローバルに物事を考える力を身につける。



Global Program 01



キリスト教を土台としたグローバル教育

横須賀学院ではキリスト教を土台とした真のグローバル教育を実践しています。中学校からの6年一貫教育を通して《世界の隣人と共に生きる》ためには何が必要かを知り、自分に与えられている賜物(タラント)を磨き育て、それを他者のために活かすことを喜びとすることができる人材を大切に育てていきます。



Global Program 02



世界を知る・学ぶための英語力

横須賀学院のグローバル教育は英語力の習得だけを目的とするものではありません。英語を使いこなすことはもちろん大切なことですが、語学はあくまでもツールに過ぎません。大切なことは、私たちが暮らすこの世界には平和・人権・環境など困難な問題が山積していることを知り、答えが簡単に見つからない、解決困難な課題に対していかにアプローチをし、その解決のために私たちは何をなすべきかを考えることです。



Global Program 03



グローバルな世界を体験する

中学2年生は、TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) に赴き、海外生活を疑似体験します。TGGは、東京都教育委員会と株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYが提供するまったく新しいタイプの体験型学習施設です。海外をイメージした街並みの中で、生徒達はグローバルな世界を存分に体験します。まるで外国の街に在るような非日常的な空間で、生徒達は英語を使う楽しさや必要性を実感し、英語コミュニケーション能力の向上に向けたモチベーションを養うことができます。

Global Program 04



豊富なグローバル教育プログラム

中学校に入学してまだ2か月も経たない5月下旬、中1は全員スプリングイングリッシュデイズに参加します。イギリス・カナダ・アメリカ・オーストラリアなど様々な国籍の先生方から体験型の授業を受けることで実践的な英語を学びます。中3・高1の3学期を利用してニュージーランドの現地校に留学することもできます。思春期の多感な時期に親元を離れて異文化体験をすることは参加した本人にとって人間力を育む大きな一歩となります。英語力の向上だけでなく、様々な人との出会いを通して、社会的になった生徒も多くいます。

グローバル教育プログラム ※いずれも希望制のプログラムです



各2日間

サマー・ウィンターイングリッシュデイズ

学内に実施する、スプリングイングリッシュデイズの発展編プログラムです。場面に合ったダイアログ練習やスキット活動などを行います。中3夏の海外ホームステイや他の海外プログラムに参加を希望する人々には、特に積極的な参加を促しています。



5日間

インターナショナルスクールでのボランティア

葉山インターナショナルスクールで行われるサマー・スクールに参加する子どもたちと、ネイティブ講師との間に入り、アクティブな活動をサポートします。子どもが好きで、ある程度の英語力がある生徒に最適です。



2週間

セブ・インテンシブ・イングリッシュ・キャンプ

春休みを利用したフィリピンのセブ島での語学研修です。ZA English Academyの寮に宿泊して、1日50分×9コマに及ぶ英語のレッスンを受講します。



中3 15泊16日間

ニュージーランドホームステイ

昼は現地の学校に通ってパディと一緒に授業を受けます。教室で学んだ英語を実際に使い、コミュニケーションがとれたという成功体験を通して、英語学習へのモチベーションの向上や、グローバル社会への関心を深める絶好の機会になります。



中3・高1 約2か月半

ニュージーランドターム留学

中3と高1が対象で、1月中旬から3月末までニュージーランドでホームステイをし、現地の学校へ通います。長期間異文化の中で生活する経験を通して、英語力の向上はもちろん価値観の尊重や相互理解の大切さなどを体験的に学習します。



高1・高2

交換留学プログラム

高1の冬出発(主にオセアニア方面)と高2の夏出発(主に北米方面)がある1年間の交換留学プログラムに参加することができます。試験と面接がありますので中1から説明会を実施し、準備を促します。

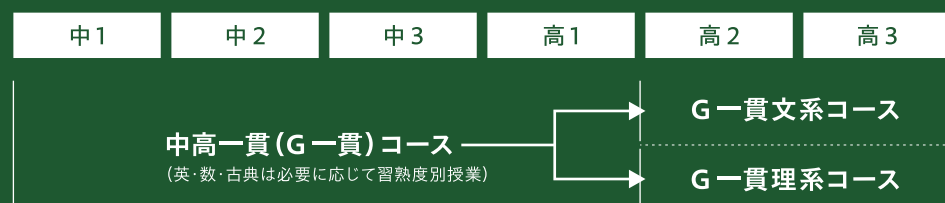
Learning Process

一人ひとりの目的・目標に 寄りそう学習指導

6年一貫の丁寧・豊富・継続的な学びを通して
自分の将来の可能性を広げる

中高一貫生は、6年間を見据え、検定外教科書なども用いて授業を行っています。また、必要に応じて習熟度別授業を展開し、きめ細かく学習指導を行っています。そのため、高校からの入学生とは別クラスで学んでいます。学力は、授業で学んだことを、多くの問題演習を通して自学自習する習慣をつけることで身につきます。中高一貫(G一貫)コースでは放課後の学習サポートや土曜特別講座を充実させて家庭学習を促します。

中高一貫(G一貫)コースのクラス編成



様々な個性を持つ仲間たちと、共に過ごす6年間。互いを尊重し高め合いつつ、共に育つ6年間でもあります。高校2年次から文系・理系に分かれたカリキュラム選択をしますが、ホームルームは共通です。

G一貫のGは、「Global」「Gloria」「Great」をあらわしています



Learning Process 01 まずは学習習慣の確立から

中1 中2

確かな学力をつけるためには、学習に向かう習慣作りが大切です。入学式後に、学習に関するガイダンスを行い、学院手帳を使って1日の生活を記録し、授業の予習・復習など家庭学習に取り組む時間をしっかりと定着させます。特に定期試験前には学習計画表を作成し、各担任がアドバイスをしながら、自ら学習を進める習慣をつけるよう指導しています。



Learning Process 02 キャリア教育を通じて将来を意識

中3 高1

中3で行われる職業体験プログラムやその準備活動などを通して、自分の将来を強く意識させています。また高1で行われるリベラルアーツプログラムでは大学の学びを体験し、自分の進むべき方向をより具体的に考え、現時点での自らの課題にも向き合うことになります。結果として、学習に対する意識も大きく変化していきます。



Learning Process 03 進路実現に向かって

高2 高3

校内や大学キャンパスで行われる様々な高大連携授業、進路講演会、卒業生による座談会など、進路を考えるイベントが多数開かれています。そして担任との面談を重ね、進むべき進路を確定させていきます。大学進学を目指した講習は、長期休暇を中心に多数開講されており、学習室やチューターズルームには、連日多くの生徒が訪れ、学習に真剣に向き合っています。

思考力・判断力・表現力を身につける

中高一貫(G一貫)コースでは、大学入試改革を念頭において、思考力や判断力、表現力などの本質的な学力を高め、知識や技能を活用できる課題解決力を育むことを目標にして、6年間の学びをサポートしています。

■ クリティカルシンキング

情報を多様な角度から検討し、論理的に理解する力を養うために、国語の授業で最新教材やiPadを活用した体系的な学習を行っています。また、それと同時に時事的なトピックスにも関心を持つ姿勢を養います。

■ アクティブラーニング

生徒たちが、仲間とともに考えを深めながら主体的に課題を解決する力を養う授業を目指しています。大学入試改革を見据えて、単に知識量を増やすことに留まらず、問題に取り組む意欲を育てていきます。

■ 対話的・協働的な学び

本校では、電子黒板やiPadを活用して生徒同士で意見を交換したり、自分たちの考えをまとめて発表するなど積極的にグループ学習を取り入れています。こうした対話的・協働的学習を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力などの21世紀型スキルを身につけることを目指します。

学習状況に応じた豊富なサポート体制 学力の育成

Support Program 01 土曜特別講座(オンライン)

応用発展問題に取り組む上級講座

中学校では、全国の中高一貫生対象のベネッセ学力推移調査を受験しています。この模試の対策授業として、土曜日に年間30回の講座をオンラインにて開講しています。中2・中3では、英数の2科目を実施しています。

■オンラインによる講座を実施

土曜日には、部活動の練習や試合、習い事などが入り講習を受講できないこともあります。また、2021年度はコロナ感染症対応のために登校して受講することが難しい状況となりました。そのため現在はGoogle Classroomを使って授業を配信し、各自のスケジュールに合わせて学習できるかたちで実施しています。

Support Program 02 中学夏期講習・補習

午前中は指名制の補習、午後は応用発展問題を扱う講習

夏期講習は中1から高3まで毎年行われます。中学生については、午前中は普段の学習が遅れがちな生徒の指名制補習となります。午後は、難しい問題にチャレンジする様々な講習が組まれます。



Support Program 03 G一貫特別講座

進研総合学力テスト対策として、発展問題に取り組む講座

高1では、G一貫特別講座を開講しています。ベネッセの進研総合学力テストで学習到達ゾーンA(難関私大レベル)、S(国公立・早慶上智レベル)評価を目指して応用発展問題に取り組めます。講座は英国数の3教科を平日の放課後に行います。

Support Program 04 大学入試対策

目標・目的に合わせて用意する予備校並みに充実した講座群

いよいよ大学入試に向けた勉強が本格化する高2から、予備校並みに充実した多彩な講座を長期休業中を中心に用意。今まで培ってきた独習力をベースに、実戦的な演習問題に数多く取り組むことで個々の学力を大学入試レベルにまで引き上げます。講座はいずれも希望選択制で無料。どの講座を受講するかは、志望大学や現在の学力レベルを踏まえながら選択することができます。

生徒一人ひとりの課題に向き合う手厚い指導

中学校では、学習室での支援や放課後の補習など、生徒一人ひとりの学習状況に応じて通常授業以外でも手厚い指導を行い、高校での学習の前提となる土台作りを行っています。



A.L.T アドバンスラーニング タイム

- ☑ 学習内容を定着させる徹底した反復演習
- ☑ 学習室専属の管理担当者がフォロー

A.L.T.は学習塾でも使用されている「eトレ」と呼ばれる学習システムを利用して、スモールステップの単元別演習に取り組む自律学習の時間です。A.L.T.の最大の利点は、夜19時の下校時刻まで開放している学習室を利用して行うこと。クラブ活動が終わった後でも間に合います。また、学習室には専属の管理担当者が常駐していますので、学習の進捗状況を管理してもらいながら、わからない課題は質問することができます。

B.L.T ベーシック ラーニング タイム

- ☑ 授業担当教員が指導
- ☑ 理解不足や疑問点の解決を早急にケア

B.L.T.は英数国で毎週放課後に組んでいる補習時間です。小テストで合格点を取れなかった、課題の仕上がりが十分でない、成績がふるわないなどの理由で、授業の中で指名を受けた生徒は参加しなければならないきまりとしています。この補習によって、理解不足や疑問点の解決を引き延ばさないようにしています。

1人1台のiPadを活用して 主体性・協働性・創造性を身につける

ICT教育

中学高校全クラスにプロジェクター式電子黒板を設置。Wi-Fi環境も整い、1人1台のiPadを活用した教育活動も大きく進んでいます。新型コロナウイルス感染症対策で休校が続いた時も、授業動画の配信やリモートでの質問タイム、各クラスの礼拝やホームルームにと、学校と家庭をつなぎ、学習活動を継続していくための心強いツールとなりました。反転学習や家庭学習、プレゼン、グループ活動など、学内外での学びの環境がさらに充実したものとなっています。



Point 01 協働学習・反転学習の充実

本校ではiPadを有効活用し、生徒が主体的に知識を習得する「反転学習」を推奨しています。教室では講義の代わりに自ら学んだ知識を確認し、協働学習を通して問題解決力を養うなど、学んだ知識を「使うことで学ぶ」活動を実践しています。

Point 04 情報や体験の蓄積

本校では中高全教室に液晶型プロジェクター・Apple TVが設置され、Wi-Fi環境も整備されているため、学校内のどこにいてもiPadを利用してインターネットが利用でき、調べ学習が可能です。

Point 02 プレゼンテーション力UP

プレゼンテーションを行う際に最も大切なことは、伝えたいことを論理的に分かりやすく説明する力です。その能力を養うため、本校では国語の授業で「クリティカルシンキング」を導入し、物事を整理し順序立てて考えるスキルを身につけます。

Point 05 保護者への迅速な連絡

学校と家庭との連絡をスムーズにするため、学校からの連絡や欠席連絡はJMOBILE(モバイルメール)を活用しています。また学年・クラス・授業・部活動などでGoogle Classroomを作成し、教員・生徒双方方向での情報共有を迅速に行っています。

Point 03 自学自習(朝学習・家庭学習)の充実

Google Classroomやロイロノートを使って教科担当が準備した教材や資料、宿題を生徒のiPadに配信し、生徒は家庭でそれらの課題に取り組み、提出します。こうして教員・生徒双方方向のスピーディーな授業が展開されていきます。

活用例 01

iPad × 理科

キャンパス内でフィールドワークを実施

中1理科(生物)の授業では、キャンパス内でフィールドワークを行いながらiPadで植物を撮影。その後、各自が撮影した植物の写真をグループのメンバーで種類別に分け、観察記録を作成し発表を行います。



活用例 02

iPad × 体育

正しい体の動きをみんなで共有

中1保健体育のマット運動の授業では、4~5人のグループがメンバー一人ひとりの動きを本人のiPadで撮影します。その後、一人ひとりの動画をみんなで視聴しながら良い点や改善した方がよい点を確認します。





様々な場面で生徒を支える「図書館×司書教諭」

図書館とのコラボプログラム

授業はもちろん、行事の準備、レポート作成や入試小論文対策など、様々な場面で2名の司書教諭が指導に加わっています。そのため、日常の中に司書教諭がいることが当たり前になっており、生徒たちは、進路や勉強、人間関係など何か困りごとがあったら、図書館で解決のヒントを探ろうと考えるほど、図書館が非常に身近な存在になっています。



Collaboration Program 01 Newspaper In Education

新聞記事を通しての学び

社会との接点になる身近な情報源として、新聞を様々な活用していく取り組みを進めています。新聞の閲覧やスクラップができる新聞コーナーは、中学棟と高校棟図書館に設置。プレゼンテーションやレポートの資料としても、積極的な活用を推奨しています。

Collaboration Program 02 入試小論文対策

新書に会い、意見をもつ

中3から小論文対策として新書を読みはじめます。図書館では希望進路別のオススメ本コーナーを設置したり、何に興味があるのか、生徒の思いを直接聞きながら、本を紹介したりしています。生徒は新書で得た知識や考えをまとめ、論理的に自分の考えを示す経験を積んでいきます。

Collaboration Program 03 ビブリオバトル

本を通したコミュニケーション

「読んでみたい」と思わせる本の紹介を競う活気あふれるバトル。予選では、グループ内でオススメの本を3分間で紹介しながらチャンプ本を決めます。決勝プレゼンでクラスチャンプ本に選ばれた本の紹介者は、大チャペルの一面に大きく映し出された本の表紙のもと、全校生徒の前の発表も行います。

Collaboration Program 04 英語の多読

無理なく続けられる

図書館には約3,000冊の洋書があり、すべて学院独自のレベル分けをしています。そのため、生徒は自分のレベルに合った本を選んで多読を進めることができます。また、高校生が作成したオススメ洋書のPOPが掲示されていて、自分にあった洋書を探しやすいように工夫しています。

◆ 司書教諭からのメッセージ

読書以外の使い方も大歓迎！
みなさんと共に成長する
図書館を目指しています

みなさんは、図書館でどんなことがやりたいですか？ 本校の図書館は読書をするだけの場所ではなく、進路の情報を集めたり、文化祭の準備をしたり、様々な使いかたができるよう工夫しています。みなさんの「やりたい」に答えられるよう、図書館は日々成長を続けていますので、「こんなこと図書館ではできないよね…」と諦めるのではなく、「図書館ならできるかも!」と希望をもって、たくさんの「やりたい」を叶えに来てください。



個々の力を合わせ、
人・自然・世界と「共に生きる」を実現する。

体験型プログラム



中高一貫校の強みを生かし、宿泊を伴う自然教室をはじめとする多くの体験型プログラムを実施することで、生徒たちは本校の教育目標である「共に生きる」体験を積み重ねます。これらの行事を通して生徒たちは集団生活の楽しさや難しさを経験しながら、あるべき人間関係や社会性を学び、豊かな人間性や協調性、自ら考える力を育てていきます。

小網代の森自然教室(中1)

自然が持つ価値を学び、“共に生きる”ことを実感する

自然と「共に生きる」意味を学び実践するために、NPO法人小網代野外活動調整会議のボランティアの方々を招き学習しています。実際に三浦半島に残る素晴らしい自然環境の小網代の森を散策し、自然が持つ価値や自然と共生する豊かな環境の創造を学んでいます。



清里自然教室(中2)

自然・自分・他者と向き合い、関わりについて考える

八ヶ岳南麓に広がる清里の豊かな自然の中で命の尊さを学ぶ様々な体験をします。自然歩道を散策して多くの動植物を観察し、酪農体験や農業体験を通して食べ物がつくられる過程を学ぶと同時に、自分自身を見つめ、他者との関わりについて考える時間を持ちます。



沖縄自然教室(中3)

沖縄の戦争体験を学び、平和について深く考える

世界の隣人と「共に生きる」ことを考えた時、戦争と平和の問題は避けて通ることができません。日本で唯一、凄惨な地上戦が繰り広げられた沖縄。ひめゆり部隊についてなどの事前学習を行い、実際に沖縄の戦跡を巡ります。海洋学習や文化体験もあり、沖縄を満喫できるプログラムです。



海外での体験学習(高2)

宿泊体験学習行事の集大成。世界の仲間と「共に生きる」

中1から積み上げてきた「共に生きる」。その集大成として、高2では海外での体験学習を行います。現地の学校を訪問して国際文化交流プログラムを行います。同世代の学生たちと直接交流することで彼らが何を考え、何を目標としているかを知り、それが自分自身を見つめ直すよい機会となります。また太平洋戦争の戦跡を訪れ、戦争の悲惨さと平和の尊さについても学びます。



Inquiry-Based Learning and Liberal Arts Education

探究と教養教育

経験を力に、
一人ひとりが自分の進むべき方向を見つけ、
社会と自分の未来について考える

自ら進むべき方向を考える充実した機会

横須賀学院では「何のために学ぶのか」について考えを深めるためのキャリア教育プログラムを提供しています。中3の「職業体験プログラム」では、働くことの意味を考え、様々な職業について調べ学習を行い、職業体験を行います。高1では、年間13回の「リベラルアーツプログラム(学術研究入門講座)」を受講することで大学の学びについての理解を深めていきます。高校では「総合的な探究の時間」の指導や希望する生徒を対象とした発展的なプログラム「探究ゼミナール」が行われ、自ら問いを立て知的活動に取り組む姿勢を養い、ミスマッチのない進路目標を設定し、大学進学後も活躍できる生徒の育成に力を注いでいます。



IBL & LA Education 01

豊かな心と確かな知性 横須賀学院の探究活動・教養教育

横須賀学院では「知性を善く用いるひと、学び続けるひとを育てる」ことを指針として様々な探究活動の機会を設定・提供しています。中学校の段階から知的活動に親しむ生徒の育成を目指し、生徒の学んでみたいという気持ちに応えます。

真正な探究学習の推進

横須賀学院では、高大連携や探究活動の重要性が訴えられる以前から生徒に向けた探究活動・教養教育の機会の実現に取り組んできました。現在も、一過性の「課題解決」や耳目をひくだけのパフォーマンスに流れることなく、真正な探究活動の実施を目指して様々な指導に取り組んでいます。高校生を対象とした「総合的な探究の時間」の指導の一環として毎年2学期を中心に開講される「探究講座」の一部には、中学生も参加可能です。また、長期休業期間中には大学の研究施設の訪問や、日帰りのスタディツアーの実施等も行っています。

高大連携授業の実施

6年一貫教育の後半では、より発展的・専門的な学びに向けて、正課の授業内でも、大学から先生をお招きし、学びの場を設定することがあります。現在は特に高校単独では実施の難しい理科の実験や実習の一部に協力をいただいています。

教育連携協定を
結んでいる大学

■ 横浜薬科大学 ■ 神奈川歯科大学 ■ 神奈川大学
■ 東洋英和女学院大学 ■ 関東学院大学 ■ フェリス女学院大学

▼ 探究講座例(2025年度実績)

日本文学を探究する
慶應義塾文学学部

哲学を探究する
東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程

教育学を探究する
横浜国立大学教育学部

法律学を探究する
弁護士(シーサイド横浜法律事務所)

小児看護学を探究する
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部

天文学を探究する
法政大学理工学部

海洋生物学を探究する
日本大学生物資源科学部





IBL & LA Education 02

自律的・主体的な学びの姿勢を養う

リベラルアーツプログラム(高1)

高1を対象に行う全13回の学術研究入門講座で、放課後や長期休暇などに開講しています。この講座の目的は、自分が大学でどのような分野に取り組みたいのかを探る第一歩を踏み出してもらうことです。



STEP 01

資料調べの方法を学ぶ

図書館の司書教諭から資料調べの方法などのレクチャーを受ける



STEP 02

学びを深める

専門分野の講師による講義で、時事問題や学問分野についての学びを深める



STEP 03

レポート・小論文作成

自分の興味のある学問分野の研究についてレポートを作成する



STEP 04

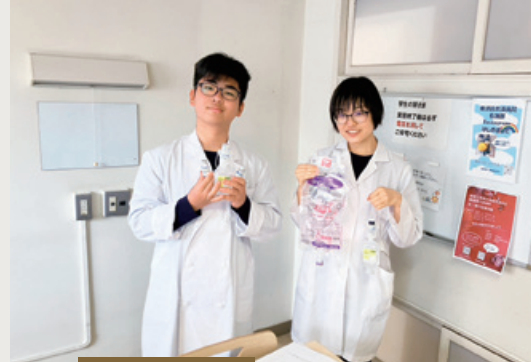
プレゼンテーション

レポートをもとにプレゼン試験を行い、自ら考え、発表する力を身につける



GOAL

授業と研究の違いを体感することで、本当に学びたい学問領域を探る



IBL & LA Education 03



様々な職業に触れ、将来の自分について考える

職業体験プログラム(中3)

一貫教育の真ん中に当たる中3では、学年と国語科、図書館の連携プログラムを通して、職業について考えます。国語科では、1学期のプレゼンテーション試験で「将来の夢」というテーマを設定し、1分間のスピーチを行います。その後、司書教諭と連携し、職業調べ活動を行います。図書館では、職業別に仕事に関する本を用意しており、レポートを作成します。このレポートの内容は、2学期のプレゼンテーション試験のテーマとなります。年末には、ロータリークラブの方から働くことの意義について講演をしていただき、3学期には、30数社の協力を得て、1社2〜3人という恵まれた環境で2日間の職場体験を行います。この1年間のプログラムを通して、生徒たちは将来の自分について考えはじめます。

職業体験プログラムで体験可能な業種

- 金融業、保険業（証券・銀行・信金・保険等）
- 製造業（自動車部品製造・造船等）
- 医療、福祉（病院・保育園・介護福祉施設等）
- 教育、学習支援業（幼稚園等）
- 卸売業、小売業（百貨店・書籍・衣料・石油等）
- 情報通信業（放送）
- 運輸業（旅客輸送）
- 宿泊業、飲食店（飲食・ホテル等）
- 公務（消防署）

その他

IBL & LA Education 04

進路決定者を対象とした、幅広い教養を身につける講座

教養講座(高3)

推薦入試や総合型選抜で既に進路が決まっている高3を対象に行う特別講座です。文化・歴史、社会・経済・法学、自然科学、語学・国際、スポーツ・健康などにジャンル分けされた講座を、自由に選択して受講することができます。担当の教員が大学や大学院で行ってきた研究の延長線上行う講座が多く、ユニークな教養教育を受けることができます。「ANA Blue Base 見学ツアー」「猿島フィールドワーク」「東海道を歩こう」「韓国語入門」「着物の文化と着付け」「自分に活かす心理学」「アコースティックギター弾き語り入門」「フラ」など毎年ユニークな講座が行われています（開講される講座は年度によって異なります）。



充実した教育連携で進路選択の可能性を広げる

青山学院との連携

横須賀学院と青山学院は、同じくキリスト教を土台とした教育理念を持つ学びの場として教育提携を深めてきました。毎年行われる高大連携授業には横須賀学院から多数の生徒が参加し、それぞれの進路選択について考える大切な機会となっています。また、青山学院大学への推薦入学は中高一貫生が優先的にエントリーできることもあって、中学からの入学生にとって魅力的な進学制度となっています。



University Connections

青山学院大学・全学部 の講義を受講
希望進路と学部学科のミスマッチを防ぐ

高大連携授業 (高1～高3)

中高一貫(G一貫)コースでは、青山学院高等部や青山学院横浜英和高校の生徒と同様に、青山学院大学の講義動画を視聴し、レポート提出を課しています。講義動画は全11学部の31講座が準備され、教授、准教授の先生方が、各学科で実際に研究している内容を高校生向けにわかりやすく解説してくれています。



青山学院大学学問入門講座 (2025年度実施講座より)

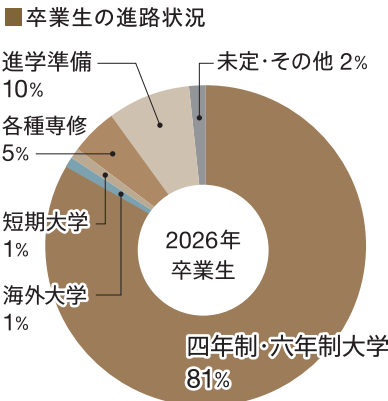
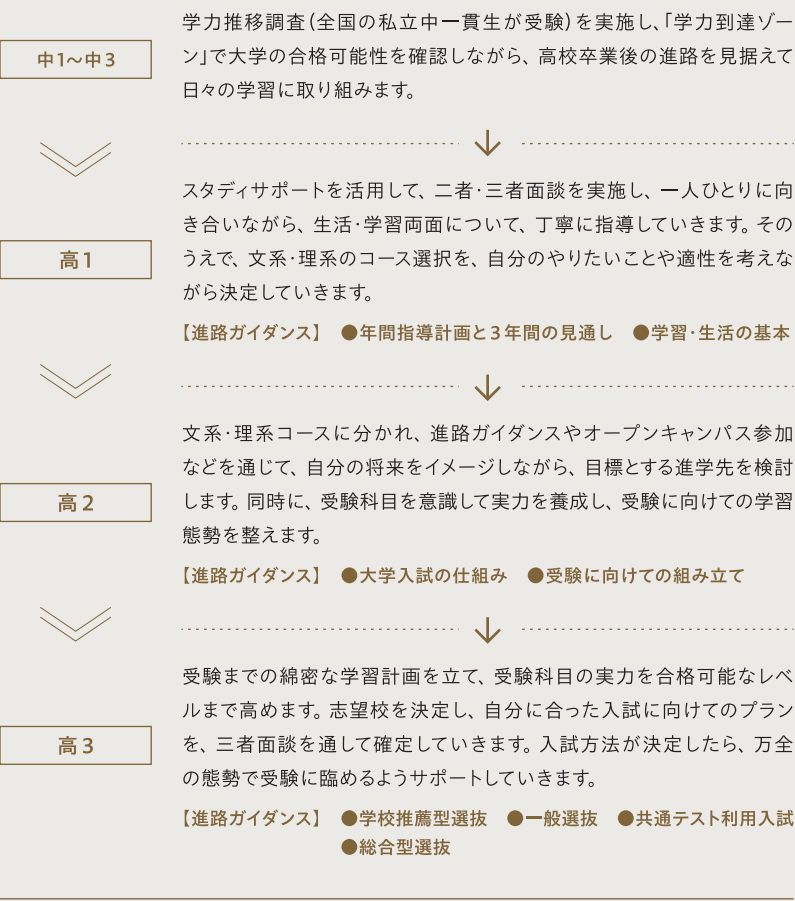
- 文学部 英米文学科
イギリス近代小説の成立
- 教育人間科学部 教育学科
保育学を知ってみよう!
- 法学部 法学科
法学を学ぶとは
- 経営学部 マーケティング学科
マーケティングにおけるデータ分析
- 理工学部 物理科学科
重力波天文学の幕開け
- 理工学部 経営システム工学科
経営工学とIE / 研究事例「青学サッカー部における分析シート作成支援システムの開発」
- 国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科
移民国家日本・Immigration and Japan
- 総合文化政策学部
デザインが社会を変える
- 社会情報学部
ビクトグラム ～世の中にあふれるステキな情報～
- 地球社会共生学部
アーティスト思考で考える環境とビジネス
- コミュニティ人間科学部
“わたし”の不思議
- コミュニティ人間科学部
企業の役割とは? 企業と地域社会の接点

中高6年間の一貫した手厚いサポート

学習指導・進路指導プログラム

横須賀学院の中高一貫(G一貫)コースでは、大学入学共通テストなどの入試改革や社会の変化をふまえて、思考力や判断力、表現力などの本質的な学力を高めて知識や技能を活用できる課題解決力を育みます。また、6年間の教科学習によって、進路希望を叶えるための実力をつけられるよう、様々なプログラムを通して生徒一人ひとりを手厚くサポートしています。

主なPROGRAM



2026年度大学入試 合格実績一覧

国公立大学			
横浜国立大学	3名	防衛大学校	1名
北海道教育大学	2名	釧路公立大学	1名
室蘭工業大学	1名	秋田県立大学	1名
東京藝術大学	2名	神奈川県立保健福祉大学	6名
静岡大学	2名	川崎市立看護大学	1名
名古屋大学	1名	横浜市立大学	4名
九州大学	1名	山陽小野田市立	
熊本大学	1名	山口東京理科大学	1名

私立大学			
早稲田大学	4名	東洋大学	32名
慶應義塾大学	2名	駒澤大学	12名
上智大学	12名	専修大学	24名
東京理科大学	14名	同志社大学	2名
明治大学	27名	立命館大学	1名
青山学院大学	34名	津田塾大学	1名
立教大学	12名	東京女子大学	3名
中央大学	18名	日本女子大学	1名
法政大学	21名	東京薬科大学	2名
学習院大学	5名	昭和薬科大学	1名
成蹊大学	10名	芝浦工業大学	9名
成城大学	3名	東京農業大学	7名
明治学院大学	24名	東京電機大学	4名
國學院大學	8名	東京都市大学	37名
武蔵大学	4名	神奈川大学	53名
日本大学	43名	東海大学	24名

海外大学	
University of Ottawa	University of Manitoba
Univerzita Karlova Hradec	The University of British Columbia
University of Toronto	
Trent University	



青山学院大学への推薦入学制度

指定校・提携校推薦22名

2009年に調印された教育提携に基づき、横須賀学院高等学校から青山学院大学への推薦入学枠が設定されています。この制度は、キリスト教教育を6年間受けた中高一貫生を優先して適用されています。

学部別推薦入学枠 (2026年度大学入試)

青山学院大学 < 指定校・提携校推薦 計22名 >			
経営学部	2名	文学部	1名
国際政治経済学部	1名	教育人間科学部	2名
法学部	2名	社会情報学部	1名
総合文化政策学部	1名	理工学部	4名
コミュニティ人間科学部	6名	地球社会共生学部	2名

※他にキリスト教学校同盟推薦12名の枠があります。(計34名枠)

推薦条件

青山学院大学への推薦条件には、青山学院大学側が提示する推薦基準と横須賀学院高等学校側の内部推薦条件の2種類があります。大学が提示する推薦基準の主なものとして、高校在学中の評定平均値が5段階中おおむね4.0以上という基準があります。横須賀学院側の条件には、「学校の成績と同程度に模試の成績も重視する」「英検2級(学部によっては準1級)以上取得」「高大連携教育への参加」などがあります。



横須賀学院中学校の1日

SCHOOL LIFE

登校時間は8時20分。朝の礼拝から一日が始まります。
授業は午前3時間、午後3時間で、中3は週に2回、7時間
授業があります。部活動の終了時間は、夏は17時30分、
冬は17時になっていますが、学習室は完全下校時刻の19
時まで開放しているため、部活動終了後に自主学習に励む
生徒が多く見られます。



互いに尊重し合い、支え合う学校行事

SCHOOL EVENTS

チームやクラスの団結力を強める体育祭や合唱コンクール。自分たちが楽しむだけでなく、来場者が楽しめるように工夫を凝らす文化祭。キリスト教学校ならではの荘厳なセレモニーなど、横須賀学院には数々の楽しい学校行事があります。みんなで励まし合い、支え合う経験からは、かけがえない絆と思い出が生まれ、学校生活に豊かな彩りを与えてくれます。

- | | |
|-----|---|
| 4月 | 新入生オリエンテーション(中1:入学式前)
入学式 |
| 5月 | 全校縦割り遠足
自然教室(中2:清里 3泊4日/中3:沖縄 3泊4日)
総合学習週間
(中1:スプリングイングリッシュデイズ、小網代の森、SDGs学習) |
| 6月 | キリスト教教育週間
花の日礼拝
創立記念日(6月9日)
体育祭 |
| 7月 | 夏期講習
サマーイングリッシュデイズ(2日間) |
| 8月 | ニュージーランドホームステイ(2週間)
夏期講習 |
| 9月 | 楠木祭(文化祭) |
| 10月 | 芸術鑑賞(劇団四季) |
| 11月 | 収穫感謝礼拝
合唱コンクール
クリスマスツリー点灯式 |
| 12月 | クリスマス特別礼拝
ページェント
メサイア公演 |
| 1月 | 職業体験 裁判傍聴(中3)
ウィンターイングリッシュデイズ(2日間) |
| 2月 | マラソン大会(海の公園) |
| 3月 | 中学校課程修了式
セブ・インテンシブ・イングリッシュ・キャンプ |



夢中になって取り組む部活動

CLUB ACTIVITIES

横須賀学院の部活動は、仲間や先輩・後輩と共に、豊かな人間関係を築きながら、技術や体力の向上、規範意識や社会性、自主性を高めることを目標に行っています。楽しさや喜び、時には悔しさを他者と分かち合う中で、学校生活をより充実したものにしています。

運動部	文化部
バドミントン部※(中・高) バスケットボール部(中・高) ソフトテニス部(中・高) 陸上競技部(中・高) サッカー部(中・高) ソフトボール部(高) 柔道部(高) 器械体操部(高) 卓球部(高) バレーボール部(高) 剣道部(高) 空手道部(高) テニス部(高) 野球部(高) アメリカンフットボール部(高) チアダンス部(高) ※中学は男子のみ	家庭科部(中) ハンドベル・クワイア(中) 写真部(中) 美術部(中・高) 吹奏楽部(中・高) 理科学部(中・高) イングリッシュクラブ(中・高) キリスト教青年会(中・高) 将棋部(高) 料理研究部(高) 茶道部(高) 書道部(高) 軽音楽部(高) ボランティア部(高) 華道部(高) 歴史研究部(高) イラストレーションクラブ(高)

バドミントン部※

限られた時間や面数の中で工夫をしながら練習をしています。中学から始めた部員が大半なので、基本からしっかりと指導をします。初心者大歓迎です！

※中学は男子のみ

活動日 月・水・木・土



バスケットボール部

「徹底」「感謝」「信頼」をモットーに男女一緒に、向上心を持って活動を行っています。「激しいディフェンス・スピードあるオフェンス」で本気で頑張りましょう。

活動日 火・水・木・土・(日)



ソフトテニス部

人数が多く活動場所にも限りがあるなか、練習の質を落とさないよう心がけながら活動しています。モットーは「深信不疑」、信じる力を原動力に励んでいます。

活動日 月・水・木・金・土



陸上競技部

陸上部は競技のレベルを上げていくのはもちろんのこと、人として自立することや、人間的な成長を重視して活動しています。

活動日 月・火・木・金・土



サッカー一部

サッカー選手である前に一人の人間としての自律を重視しています。ピッチ内のプレーだけでなく、挨拶や服装、学習態度など日常生活の姿勢にも指導を行っています。

活動日 月・水・(木)・金・(土)



家庭科部

家庭科部では手芸を中心に、自分の興味や関心に合わせた作品づくりに取り組んでいます。学期に1回ほど料理にも挑戦し、文化祭では作品展示を行います。

活動日 木・金



ハンドベル・クワイア

ハンドベルは、教会の塔の鐘の音を組み合わせる練習のために、教会で生まれた楽器です。リンガー皆の心を合わせて一つの響きを、音楽を奏でます。

活動日 月・木・金



写真部

高校部員と合同で定期的に撮影会に出かけています。植物、動物、風景、鉄道などの写真を撮影して、文化祭などで展示会を行っています。

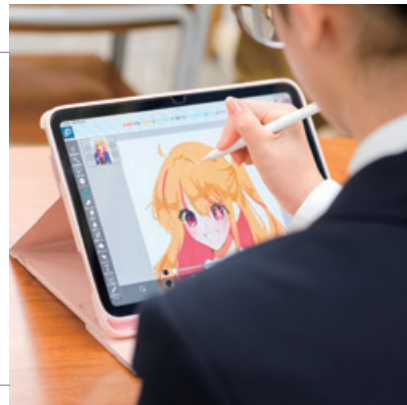
活動日 火・金



美術部

部員みんなで楽しく絵を描いています。特に最近ではタブレットでイラストを描くことが人気です。絵の得意、不得意に関係なく、誰でも楽しく参加できます。

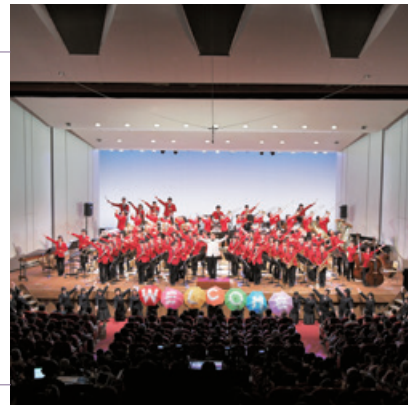
活動日 月・木・金



吹奏楽部

定期演奏会や夏のコンクールをはじめ、文化祭や地域の演奏会など、充実した演奏活動を行っています。仲間の役に立てるように、日々練習に励んでいます。

活動日 月・火・木・金・土



理科学部

通常の実験や観察に加えて、3Dプリンタで立体物製作、ドローンによる航空写真、ゲームプログラミングなど、部員の興味関心に合わせて何でも取り組みます。

活動日 木・金



イングリッシュクラブ

ゲーム等を使って楽しく英語を学んでいます。多言語に触れることを目標に、韓国語にも挑戦しています。言語だけでなく異文化を知ることもできます。

活動日 木・金



キリスト教青年会

毎週金曜日にランチミーティングを行い、部員同士の交流を大切にしています。それ以外の主な活動はキリスト教行事の手伝い等を行っています。

活動日 金



学校生活を支える充実した環境

SCHOOL FACILITIES

キャンパスは記念艦「三笠」のある三笠公園に隣接しており、教室の窓からは間近に東京湾や房総半島を望むことができます。明るく開放的なキャンパスには小中高校舎のほか、3つのグラウンド、荘厳なチャペル、4階建ての体育館、カフェテリア等があり、充実した学校生活を送ることができます。



- ① 中高生専用のグラウンドです。陸上トラック、合計3面のテニスコートを併設します。
- ② G一貫コースの高校生も生活する、南棟・北棟からなる校舎です。
- ③ アリーナ、小学校体育館、柔道場、部室からなる体育館です。
- ④ 2006年に完成した中学校の校舎です。教室10クラスと学習室があります。
- ⑤ 2010年に完成した学院の中心部です。大小2つのチャペル、チャペル棟職員室などからなります。



UNIFORM

その日の気分・季節に合わせて着こなし自由。女子は冬服・夏服ともにスラックスを選択できます。新しく導入されたポロシャツは男女ともに「デザインがオシャレ」「着心地もよく涼しくて快適」と生徒の評判も上々です。ネクタイはえんじ・紺・緑の3色から選べます(式典の時はえんじを着用)。



冬服



夏服

ポロシャツ

HISTORY

学校沿革

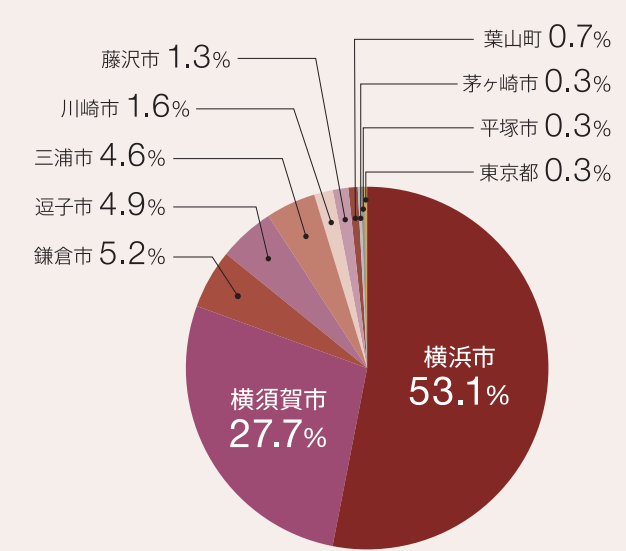
青山学院第二高等部を引き継ぎ、横須賀学院中学校・高等学校開校 初代理事長小崎道雄、初代院長・校長武部啓	1950	
	1953	
松尾造酒蔵、第二代理事長に就任	1960	旧木造体育館改修
	1961	
旧高校校舎増築及び旧第一校舎改装	1964	小坂嵩城、第二代院長に就任
	1965	
生徒食堂開設	1968	クリスマス音楽会「メサイア」 横須賀市文化会館にて初めて一般公演
	1969	
松尾理事長のまま、第三代院長に就任 礼拝堂の改築及びグラウンドの大改修	1970	旧体育館の増改築工事完了 小学校スクールバス購入
	1972	
	1978	斎藤忍、高等学校長に就任
中学校・高等学校校舎落成	1979	
	1980	旧校舎跡地を中・高グラウンドとして完成
旧校舎4号棟を全面改修し、2号館とする 創立30周年記念行事として講演会（中野好夫氏）を開催 「横須賀学院の教育」出版	1981	紀要「いなほ」創刊号発行
斎藤忍高等学校長、中学校長兼務	1982	
	1985	
	1989	チャペル改修 阿部志郎理事、理事長に、斎藤忍中・高校長、第四代院長に就任 体育館落成
創立40周年記念行事として徳永兼一郎チェロリサイタル、 杉山清貴コンサート、山下泰裕講演会等を開催 小学校校舎落成	1992	那須黒磯に校外施設「星望山荘」開設
菊地敏弘、中学・高等学校長に就任	1994	
	1996	
	1997	週五日制完全実施及び制服改定 井苺莚子、小学校校長に就任
1号館空調設備完成	1998	
	1999	津田一路、第五代院長に就任
中学校、第1回海外語学研修（イギリス・オックスフォード）を実施 小学校特別教室棟落成	2000	
	2001	創立50周年記念事業として □吹奏楽部定期演奏会 □ビッグアート【人文学】 □記念式典、感謝会、記念誌発行等を実施
藤野利夫、中学・高等学校長に就任 1号館北棟にPC教室・MM教室完成	2002	
	2003	選抜クラス設置 食堂外部業者へ委託「くすの木」開店 國岡昭夫、第四代理事長に就任
高等学校1年生から新カリキュラム・3類型での学習始まる。 総合学習・学校設定科目等の特色 堀田征雄、小学校校長に就任 高等学校 オーストラリアで第1回国際交流プログラム	2004	小学校・中学校・高等学校で二期制実施
小見山茂樹、事務長に就任 マリアットビル高校来訪、学院オーストラリアウィーク開催	2005	本館外壁塗装工事
	2006	
	2007	3号館（中学棟）定礎式。4月から中学生の中学棟での生活が始まる。
1号館1階にカウンセリングルーム設置	2008	
	2009	中学と高等学校に副校長制導入。中学校 マルタ共和国での語学研修 第2視聴覚室、第2音楽室大改修
学校法人青山学院と学校法人横須賀学院の「教育提携協定」締結 体育館奥に特別棟（小学校教室、営繕室、同窓会室）竣工 中学・高等学校3学期制へ回歸。高校1年次のみ土曜授業復活。	2010	井苺莚子、第六代院長に就任 創立60周年記念事業 チャペル棟落成
新年教職員始業礼拝で青山学院山北宣久院長が説教	2011	60周年記念式典
	2012	
学校法人青山学院との教育提携の更新、双方の院長同士で協定書に調印 仲井宣雄、小学校校長に就任 青山学院との教育提携強化、提携校推薦入学枠を新設	2013	学校法人青山学院との教育提携の更新、双方の院長同士で協定書に調印 保々和宏、第五代理事長に就任 オーストラリア・マイアミ州立高校生34名来訪、「ブリッジング・ワールド・トゥゲザー」
	2014	横須賀学院の「ミッションステートメント」制定 横須賀学院（小学・中学・高等学校）いじめ防止基本方針施行 オーストラリア・マイアミ州立高校生28名来訪 横須賀学院・マイアミ州立高校 友好親善協定調印
創立70周年	2018	
	2019	
二瓶浄幸、第七代院長に就任 カフェテリア落成	2020	川名 稔、中学・高等学校長に就任 小出 啓介、小学校校長に就任
	2022	
	2024	パイプオルガン完成

生徒在籍数（2026年4月現在）

	横須賀学院中学校			横須賀学院高等学校（一貫生）		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
男子	56名	67名	59名	64名	53名	56名
女子	40名	41名	44名	39名	29名	40名
合計	96名	108名	103名	103名	82名	96名
クラス数	3	3	3	3	3	3

	横須賀学院高等学校（高入生）		
	1年生	2年生	3年生
男子	196名	168名	176名
女子	214名	237名	224名
合計	410名	405名	400名
クラス数	10	12	12

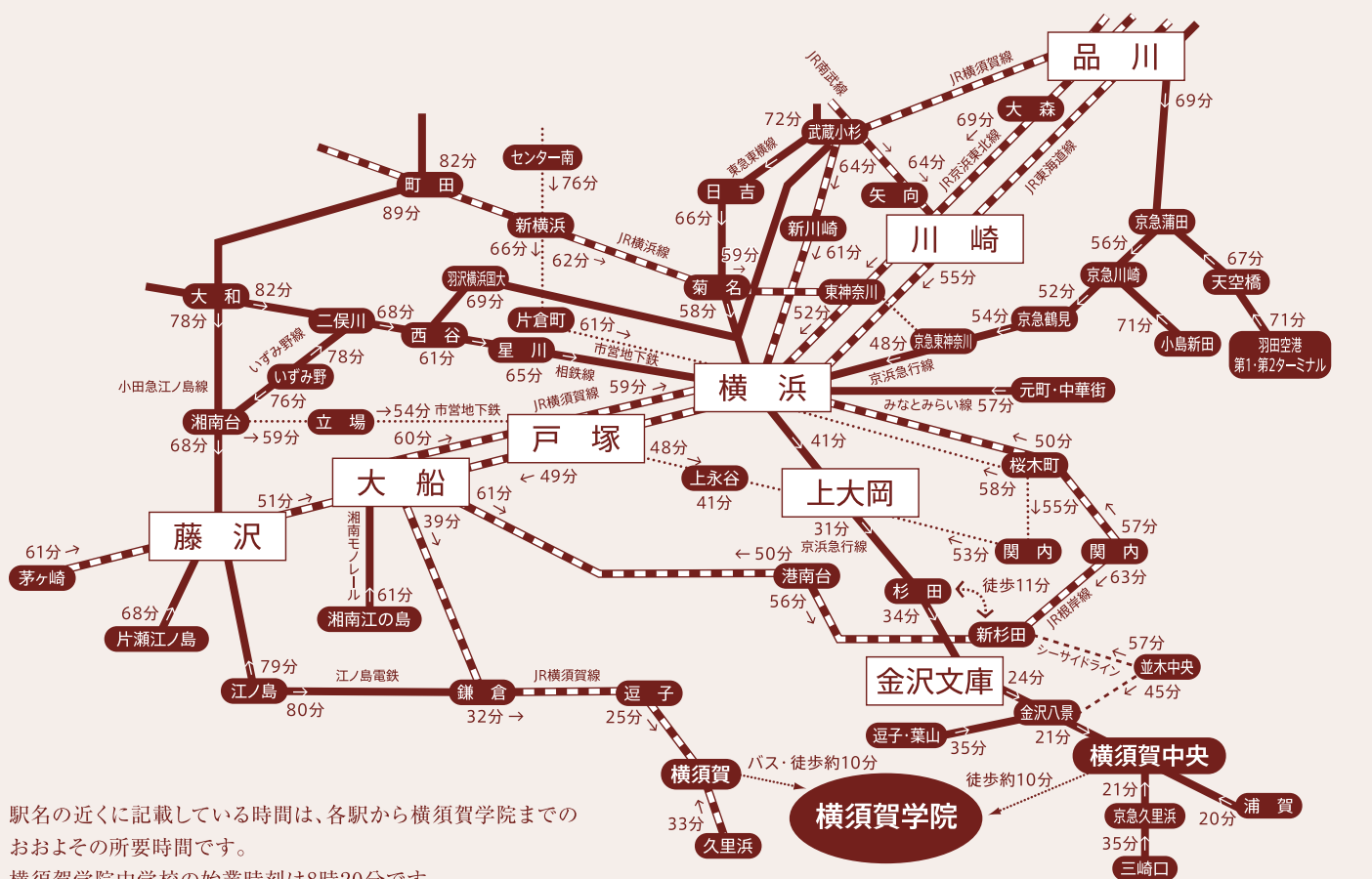
在校生の居住地域（2026年4月現在 中学1～3年生）



併設小学校からの進学者数

	2026	2025	2024	2023	2022	2021
男子	10名	9名	6名	10名	15名	11名
女子	15名	11名	13名	10名	8名	9名
合計	25名	20名	19名	20名	23名	20名

通学ルートマップ



駅名の近くに記載している時間は、各駅から横須賀学院までのおおよその所要時間です。

横須賀学院中学校の始業時刻は8時20分です。

※2025年9月時点